



アーカイブズとしての写真

— 多元化する写真の価値 —



わたしたちにとって身近な記録媒体である写真。ふとした瞬間の切り取りでも、見る人によっては様々な価値や意味を持つことがあります。

まだカメラが希少だった時代、生涯にわたり反基地・反戦平和の信念を貫いた阿波根昌鴻が米軍統治下の沖縄県伊江島で撮影した写真を事例に、アーカイブズの観点から写真の価値と可能性について考えます。

講師 **高科 真紀 氏** (国立民族学博物館助教)

講師紹介

国文学研究資料館機関研究員、人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教を併任)等を経て、2024年4月より現職。アーカイブズの保存環境の適正化、民間所在アーカイブズの保全と活用に関する研究をおこなう。

12月 **12**日(木) **18:30~19:30**
オープンセミナースペース